

保育者養成課程における保育内容「環境」の 指導法に関する考察

—大学1年生による幼稚園の観察を通して—

中山 貴 司*

(2022年12月22日 受理)

A Study on Teaching Method for “Environment” in Childcare Contents in Training Nursery Teachers:

Through Observation in Kindergarten by First-Year University Students

Takashi NAKAYAMA*

The purpose of this study was to verify the following two points by observing the relationship between the environment and children in kindergarten by first-year university students.

1. Acquiring knowledge and understanding of the significance of the various components of the environment
2. Raising your motivation to work as a kindergarten teacher or nursery teacher

As a result of the verification, it was clarified that the above two objectives were generally achieved through observing the relationship between the environment and children in kindergarten.

Keywords: Environment 環境, Teaching Method 指導法, Observation in kindergarten 幼稚園での観察

1. 問題の所在

幼稚園教育要領解説（2018）には、幼稚園教育は、「環境を通して行うもの」であることを基本とし、「幼児期の教育においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充足感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。その際、幼児が環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになることが大切である。」と述べられている。そして、この「環境を通して行うもの」について、若月（2019）は、「子どもの発達を助長することや、援助するために大人の指示や指導だけで成立するのではなく、子ども自らが主体となって環境に関わる力を大切にすることが求められている」と述べている。これらのことから、幼児期の子どもが主体的に環境に関わりながら試行錯誤したり、考えたりすることは大切であるといえる。

一方で、環境を構成することの意義について、無藤（2019）は、園に置かれたものやそこにいる

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科准教授

人、そこで起きている事柄一つ一つを保育者が指示するより、子どもが環境を見て取り、自分で始めるほうがいろいろなことについて学べる、と述べている。また、横山（2021）は、保育者が子どもに環境に関わらせようとするのではなく、子どもが環境にどのように関わっているのかを保育者自身が十分に把握し、環境は保育者がつくるものだ、という意識をもつことが必要であると述べている。これらのことから、保育者は、子どもが環境に主体的に関わりながら様々な体験を重ねていくことができるよう、意図的、計画的に環境を構成する必要があるといえる。

以上のことから、幼児期の子どもの発達にとって環境は重要であり、保育者には意図的、計画的に環境を構成する力が求められているといえる。そこで、将来、保育者になると考えられる大学生に対して、環境構成についての知識を身に付けさせたり、その意義について理解を図ったりすることは重要であると考えられる。

これまでも保育者養成課程における大学生を対象に、保育内容「環境」の授業において、いくつかの授業実践が行われ、その成果が報告されている（例えば、吉田、2008：岡野、2013：小野・飯島、2017）。吉田（2008）は、大学1年生71名を対象に「子どもと環境」の授業を通して、講義に加えて、幼稚園で遊ぶ体験や絵本を見たり身近な材料で物を作ったりするなどの体験活動を取り入れた実践を行った。そして、授業後に学生の保育者の立場としての環境に対する「気づき」について記述式の調査を行った。その結果、講義に比べて、体験活動を通した学びによる「気づき」が多く見られたことを報告している。また、岡野（2013）は、大学2年生79名を対象に「子どもと環境」の授業を通して、学内フィールドビンゴや小麦粉粘土作りなどの体験活動と授業後の発展学習としての提出課題を取り入れた実践を行った。その結果、学生の授業評価や感想の記述内容から、体験活動を通して、子どもが主体的に環境にかかわりたくなるような環境構成の工夫や仕組みづくりを学べた点は大きかったと報告している。

これらのことから、保育内容「環境」の授業において、講義とともに体験活動を行うことは、環境に対する気づきやその理解を促す上で有効な方法の一つであると考えられる。実際に、香崎（2022）は、九州圏内の大学・短期大学43校の保育内容「環境」の指導法についてシラバスを基に調べた結果、多くの保育者養成校において、幼稚園や子ども等を訪問したり、制作や栽培、遊びを具体的にしたりするなどの体験活動に関する内容が含まれていたことを報告している。

以上のことを踏まえて本研究においても、保育内容「環境」の授業に体験活動を取り入れることにする。その際、本研究における体験活動として、本学内にある「ゲース幼稚園」を訪問し、観察を行う。「ゲース幼稚園」は緑に囲まれた山の中腹にあり、園庭には、「土や砂遊び場」や「遊具」はもちろんのこと、「樹木やツル性植物」「築山や斜面」などの園庭環境多様性指標（Cedep, 2018）の15の要素のほとんどが含まれている（図1, 2, 3参照）。そこで、「ゲース幼稚園」での環境と子どもとの関わりを観察することを通して、大学生が環境構成の多様な要素について知識を身に付けたり、環境に対する意義を理解したりすることができるのではないかと考えた。また、本研究では、今後の進路をまだ決定していない大学1年生を対象とする（本学では、大学2年生進級時に、「幼児教育コース（幼稚園教諭一種・保育士免許取得可）」、あるいは「児童教育コース（幼稚園教諭一種・小学校教諭一種免許取得可）」のどちらかを選択する）。実際に幼稚園を訪問して子どもと接することを通して、環境への理解を深めるだけでなく、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲も高めることができるのではないかと考えた。筆者の管見の限り、大学1年生



図1 築山や斜面



図2 樹木



図3 土や砂遊び場

を対象として、幼稚園での観察の前後における環境構成についての知識・理解の変容について調査した研究は見当たらなかった。

2. 本研究の目的

大学1年生が、幼稚園を訪問し、環境と子どもとの関わりを観察することを通して、以下の2つの内容について検証することを本研究の目的とする。

- I. 環境構成の多様な要素について知識を身に付けたり、環境に対する意義を理解したりすることができたか。
- II. 将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたか。

3. 検証方法

本研究の目的Iについては、幼稚園の訪問前後において、幼稚園の環境構成の多様な要素についての知識や環境に対する意義の理解がどのように変容したかについて、ワークシートへの記述内容を比較して検証する。目的IIについては、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたかどうかについて、訪問後の幼稚園へのお礼の手紙の記述内容を基に検証する。

4. 実践内容

大学1年生50名を対象とし、後期「幼児と環境」(全15回)の授業における第5回(10月26日)において、「ゲース幼稚園」を訪問し、観察を行った。その際、50名を4つのグループに分けて、1グループ約30分の観察を行い、観察後、幼稚園へのお礼の手紙を記述させた。環境構成についての知識や理解に関するワークシートは、第4回の授業の最初、及び第6回のグループ毎での「ゲース幼稚園」振り返りの後、授業の中で記述させた。

対象者は、前期「保育内容総論」(全15回)を通して、保育の5領域について学んでいる。また、第4回の授業を行うまでに、第1回では「幼児教育のねらいと10の姿や主体的・対話的で深い学び」、第2・3回では「領域『環境』のねらいと12の内容」、第4回では「園庭環境多様性指標」について学習を行った。

5. 結果と考察

まずは、幼稚園の訪問前後において、幼稚園の環境構成の多様な要素についての知識や環境に対する意義の理解がどのように変容したかについてワークシートへの記述内容を比較して検証する。続いて、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたかどうかについて、幼稚園観察後のお礼の手紙の記述内容を基に検証する。

I. 環境構成の多様な要素について知識を身に付けたり、環境に対する意義を理解したりすることができたか

ゲース幼稚園観察前後において、大学生に対して、①「保育における『環境』において、あなたがイメージするものを全て書き出してください」、②「そのイメージするものには、どのような教育的効果があると思いますか」の2つの質問を行った。①の質問によって幼稚園の環境構成の多様な要素についての知識、②の質問によって環境に対する意義の理解について、それぞれ検証を行う。

まずは、上述①について、幼稚園観察前後における大学生の記述内容の中で、多かったものから15番目までをまとめたものを表1に示す。表1から以下、2点のことがいえる。

表1 幼稚園観察前後における環境構成の記述内容と人数（延べ数） $N=50$

記述内容【観察前】	人数	記述内容【観察後】	人数	増減数
1. 自然	35	1. 遊具（ブランコ、滑り台等）	56	28↑
2. 遊具（ブランコ、滑り台等）	28	2. 植物（木の実、花壇等）	51	30↑
3. 植物（植物栽培、花壇等）	21	3. 砂場（土、砂等）	37	27↑
4. 動物（動物の飼育等）	18	4. 動物（動物の飼育、虫等）	33	15↑
4. おもちゃ（積み木、パズル等）	18	5. スペース（広い場所等）	29	25↑
6. 友達	16	6. 築山（山、斜面等）	22	22↑
7. 保育者（先生、教師等）	15	7. 水場（水道、プール等）	20	12↑
8. 楽器（ピアノ、ギター等）	13	8. 自然	18	17↓
9. 本（絵本、図鑑等）	12	8. 友達（年齢の違う友達）	18	2↑
10. 文房具（はさみ、のり等）	11	10. 家具（椅子、ベンチ等）	17	13↑
11. 砂場（土・砂等）	10	11. 道具	16	14↑
12. 人間（人等）	8	11. 保育者（先生、教師等）	16	1↑
12. 水場（プール、水等）	8	12. 森（山）	13	13↑
14. 生物（生き物）	6	14. 楽器（ピアノ、ギター等）	10	3↓
15. 物	5	14. 過ごしやすい空間（ゆっくりできる場所等）	10	6↑
15. 紙（折り紙、画用紙）	5			
その他	24	その他	66	
合計	253	合計	432	

ア. 記述内容の合計数が観察後は432、観察前は253であり、観察後は観察前の約1.7倍（179の増加）になっており、幼稚園を訪問し、観察したことによって、多くの大学生が環境構成の多様な要素についての知識を身に付けることができた。

イ. 「築山（山、斜面等）」や「森（山）」といった環境構成の要素を記述した大学生は訪問前にはおらず、幼稚園を訪問し、観察したことによって、半数近い大学生が新たな環境構成の要素についての知識を得ることができた。

上記イについては、「築山（山、斜面等）」や「森（山）」以外にも、大学生が幼稚園を観察後、新たに記述した環境構成としては、「岩（石等）」（6）や「シンボル（高台等）」（4）、「秘密基地」（2）等があった。また、表1に示した中で、「自然」の延べ数が観察前に比べて17減っているが、これは「植物（木の実、花壇等）」や「動物（動物の飼育、虫等）」等、「自然」をより具体的に記述した大学生が増えたからだと考えられる。また、「楽器（ピアノ、ギター等）」の延べ数も観察前に比べて減っているが、これは実際に幼稚園を訪問し、観察した際、楽器を用いた保育を行っているクラスが少なかったからではないかと考えられる。

次に、上述②について、観察前後において大学生が記述した「環境」においてイメージするものとその教育的効果について、正しいと判断できる記述をした一人あたりの個数と人数をまとめたものを表2に示す。

表2に示したように、環境に対する意義を記述した一人あたりの平均の個数が観察前では2.9個であったが、観察後では6.9個であった。また、観察前は環境に対する意義について記述した個数が0～3個の大学生が32名いたが、観察後は全ての大学生が4個以上記述することができた。これら

表2 幼稚園観察前後における環境の教育的効果について記述した一人あたりの個数に対する人数 N=50

一人あたりの個数	人数【観察前】	人数【観察後】
0個	2名	
1個	8名	
2個	16名	
3個	6名	
4個	9名	7名
5個	5名	6名
6個	1名	7名
7個	2名	3名
8個	1名	24名
9個		1名
11個		1名
14個		1名
一人あたりの平均の個数	2.9個	6.9個

のことから、幼稚園を訪問し、観察したことによって、多くの大学生が様々な環境に対する意義について理解することができたといえる。また、意義について記述する際、幼稚園での実際の子どもの言動を踏まえながら記述している大学生が数名いた。その例として、学生 A、B、C の 3 名の幼稚園観察後の記述内容を表 3 に示す。

表 3 幼稚園観察後の学生 A、B、C の環境に対する意義に関する記述内容

	環境	意義
学生 A	砂場	砂場の砂で、料理人になりきりながらカレーやスープを作っており、砂を使うことで、自分で考えながら見立てて遊ぶことができていました。これによって、豊かな感性と表現力がつくと思いました。
学生 B	動物	ゲーンズ幼稚園では、うさぎとインコがおり、子ども達一人一人がえさの入った袋を持っており、それをうさぎに与えていた。そこから、生命の大切さを自然と学べると感じた。
学生 C	斜面	子ども達は斜面を走っていた。それを見て、平らな環境だけでなく、でこぼこな環境もあることで下半身を強化できると感じた。

表 3 に示したように、学生 A、B、C は、幼稚園での実際の子どもの言動を踏まえながらその意義について記述できており、実感を伴った理解を図ることができたのではないかと考える。

以上のことから、幼稚園を訪問し、環境と子どもとの関わりを観察することを通して、多くの大学生が、環境構成の多様な要素についての知識を身に付けたり、環境に対する意義を理解したりすることができたといえる。

Ⅱ. 将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたか

本研究では、2 年生進級に向けて、コース（「幼児教育コース」あるいは「児童教育コース」）を決定する前の大学 1 年生を対象とした。そこで、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたかどうかについて、訪問後の幼稚園へのお礼の手紙の記述内容を基に検証する。多くの大学生が、幼稚園を訪問して、環境構成そのものの良さや環境と子どもとのかかわり、そして環境を通して育まれる子どもの力について、自分なりの考えを記述していた。そして、中には、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたと考えられる記述がみられた。それらの記述内容を表 4 に示す。

表 4 に示した「私はずっと小学校教諭になりたいと思っていましたが、幼稚園教諭も素敵な仕事だと思うようになりました」（学生 J）、「今回の経験を通して、将来、幼稚園教諭になりたいという気持ちが大きくなりました」（学生 K）等のように、今回の幼稚園観察を通して、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができたと窺える記述内容がいくつか見られた。なお、将来、幼稚園教諭や保育士になることに否定的、あるいは悲観的な思いや考えを記述したものはなかった。

以上のことから、幼稚園を訪問し、環境と子どもとの関わりを観察することは、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることに効果があったといえる。

表4 「ゲーンズ幼稚園」へのお礼の手紙の記述内容（一部抜粋）

	手紙の記述内容（一部抜粋）
学生 D	季節に合わせて木の実を集めたり、ゲーンズ幼稚園ならではの築山の側で遊んだり、子どもの遊びの工夫はたくさんあることに気づくことができました。私が知っている遊びは定番のものばかりで、今はまだ子どもに楽しんでもらえるような自分の特技はありません。これから、絵本の読み聞かせや歌うことなど、子ども達と一緒に楽しめる特技を一つでも多くもちたいと思いました。
学生 E	幼稚園のビデオや写真を見ただけではわからなかった子どもたちの遊具を使った遊びの工夫、園庭でできる遊びの多さ、その遊びの中での先生方の関わり方など、私の想像以上にいろいろと考えられており、私自身の知識不足にとっても悔しい気持ちが生れました。ただ、この悔しさを思い出の一つにするのではなく、未来につなげることができるよう成長していきたい、と心の中で思いました。
学生 F	素敵な環境や仲間、先生方に囲まれて幼稚園生活を送られている子ども達の様子はとても印象深かったです。やはり、子ども達が楽しく園生活を送るには、先生方の関わり方も大きく関係しているのだと改めて実感しました。子ども達一人一人に目を配り、更には子ども達の成長を伸ばすような言葉がけを行っており、私も将来、先生方のような素敵な教育者になりたいといった気持ちがより一層強くなりました。
学生 G	私は主に一人の男の子と行動を共にしたのですが、大きな木の前に、世の中の幸せを集めたような顔でどんぐりを拾う笑顔が忘れられないです。この笑顔を守るためのお手伝いをずっとしていきたいと心から思いました。
学生 H	園内の環境は、自然が多く子どもたちが活発に活動できる環境になっていて、環境を通して生き物を大切にする力や、季節感を味わうことができると感じました。このような機会を頂いたことにより、ますます子どもに携わる仕事に就きたいと強く思えました。
学生 I	多くの子どもがいる中で、子ども一人一人に対しての小さな配慮を欠かさず対応されている先生方の姿を拝見し、私にはまだ身につけなければならないことがたくさんあると感じることができました。今回の訪問を通して、保育士になりたいという思いがより一層増しました。
学生 J	積極的にお話してくれる子、一人で黙々と遊んでいる子、友達と元氣いっぱい走り回る子、様々な子どもがいて、どの子に対しても優しく、みんなが楽しく過ごすことができるように接している先生方の対応力や援助に改めてすごさを感じました。今回ゲーンズ幼稚園で短い時間でしたが子どもたちと関わらせていただけてとても充実した時間を過ごすことができました。私はずっと小学校教諭になりたいと思っていましたが、幼稚園教諭も素敵な仕事だなと思うようになりました。貴重な体験をありがとうございました。
学生 K	女の子たちに「欠けてもさら粉をかけたら直るんだよ」とアドバイスをもらったり、「この泥団子にさら粉かけて」と頼まれて頼られていると感ずることができて嬉しかったし、手の大きさによって形も大きさも違う泥団子ができていて創造力が育まれているなと感じました。今回の経験を通して、将来、幼稚園教諭になりたいという気持ちが大きくなりました。

6. まとめ

本研究では、大学1年生が幼稚園を訪問し、観察することの効果について検証を行った。検証の結果、多くの大学生が、環境構成の多様な要素についての知識を身に付けたり、環境に対する意義を理解したりすることができた。また、数名の大学生が、将来、幼稚園教諭や保育士として活躍することへの意欲を高めることができた。これらのことから、本研究を通して、大学1年生を対象と

した幼稚園観察の有効性について明らかにすることができたといえる。

【引用・参考文献】

- ・香崎智郁代（2022）「保育者養成校における保育内容「環境」の指導法に関する考察—シラバス分析を通して—」『心理・教育・福祉研究：紀要論文集』，21巻，2号，pp. 61-70
- ・岡野聡子（2013）「体験活動と授業後の発展学習を重視した保育内容「環境」の授業展開—大学2年生授業における実践事例から—」『環太平洋大学研究紀要』，7号，pp. 29-36
- ・文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
- ・無藤隆（2019）「第1章 幼児教育の基本」無藤隆監修・福本真由美編者代表『新訂事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林，pp. 9-42
- ・小野真喜子・飯島典子（2017）「保育学生の環境構成の理解を促す保育内容「環境」の授業展開」『聖和学園短期大学紀要』，54巻，pp. 131-140
- ・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）園庭調査研究グループ（代表研究者 秋田喜代美）編著（2018）『子どもの経験をより豊かに：園庭の質向上のための一工夫へのいざない』東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）
- ・横山文樹（2021）「第1章 領域「環境の意義と課題」」，駒井美智子・横山文樹編著『事例と演習でよくわかる保育内容「環境」』中央法規，pp. 1-12
- ・吉田若葉（2008）「創造性豊かな保育者養成を目指す授業の工夫（報告4-1）科目「子どもと環境」における「気づき」の学習」『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』，1号，pp. 169-189
- ・若月芳浩（2019）「第1章 保育の基本と環境」若月芳浩編著『改訂第2版 環境の指導法』玉川大学出版部，pp. 1-24